

平成 30 年度 自己評価表

中長期目標 (学校ビジョン)	多様な学習歴やニーズを持つ生徒の学習を支援し、社会で共生する資質と自立の基盤となる能力・態度を育む。	今年度の 重点目標	1 学ぶ意欲の喚起・育成 2 心豊かに他と共生する態度の育成 3 社会的な自立に向けた支援
---------------------------	--	----------------------	---

年 度 当 初					評 価 結 果 (1) 月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 学ぶ意欲の喚起・育成	○授業、面接指導(スクーリング)の改善	○授業を大切にできる態度を育てることが必要である。	○学習に集中し、意欲的に授業に参加することができる。	○ユニバーサルデザイン・合理的配慮の観点を取り入れた授業の展開 ○授業のための全職員による情報共有 ○支援が必要な生徒への個別指導	○ユニバーサルデザイン・合理的配慮についての説明を全職員に行った。 ○支援員を配置し、個別指導を充実させている。 ○不登校傾向など支援の必要な生徒も多く、授業の出席率は高くはない。	B	○伝え方を工夫するなど、ユニバーサルデザイン・合理的配慮に基づいた授業をさらに推進する。 ○さらに生徒の情報を共有し、個別の支援に沿った授業を行う。
	○生徒理解と環境整備	○生徒のおかれた状況を理解し、学ぶ意欲を高める必要がある。	○生徒が、安心して学校生活に取り組むことができる。	○個人面談・Hyper-QUの実施による生徒理解と個別支援の充実 ○SC・SSW・白鳳サポーター・特別教育支援員との連携 ○通級指導教室の環境整備	○各課程会議での情報共有やSC、SSWサポステ、白鳳サポーターとの情報共有を行った。 ○中学校からの引き継ぎ、Hyper-Quを実施し、生徒理解を深めた。	B	○共有した情報をもとに、支援方法を引き続き検討していく。 ○中学校からの引き継ぎを活用し、個別支援をさらに充実させる。
	○ICT活用教育の推進	○ICT化の進展に伴い、情報活用能力の育成が必要である。	○ICTの活用ができる。	○ICT活用のための教員研修 ○各教科でのICT活用の推進 ○NHK高校講座でのICT活用	○授業でのiPadの活用は昨年度比30%増と着実に増えて、生徒の興味・関心を引き付ける授業の実施に取り組んだ。	B	○iPadを含めたICT機器の活用を引き続き推進し、教員生徒共にICT機器操作のスキルアップを図る。
2 心豊かに他と共生する態度の育成	○規律指導	○挨拶、言葉遣いなど基本的な生活習慣を身につける取組が必要である。	○すすんで挨拶をし、社会人として必要な言葉遣いを行うことができる。	○遅刻・欠席の防止指導 ○積極的な挨拶・声かけ ○社会人としてのマナー指導 ○健康管理指導の推進	○職員が生徒に積極的にに関わり、挨拶や言葉遣いに改善が見られた。 ○コモンホールでさぼっている生徒が減った。 ○情報共有が密に行われ、円滑に指導・支援ができた。	B	○今後も根気強く職員が声掛けをし、情報共有を積極的に行うことで、問題の早期発見早期解決に取り組む。 ○個々の生徒の様子を見守り、一人一人に適切な指導を行い、基本的な生活習慣の定着に取り組む。
	○自己理解・他者理解の促進	○人間関係力の育成をする環境づくりが必要である。	○生徒同士の信頼関係を醸成し、クラスがお互い尊重し合っ居心地の良い場となる。	○生徒理解のための教員研修の実施 ○通級指導の実施 ○エンカウンターの実施	○計画どおり事業を実施し、教員の生徒理解、生徒の自己理解が深まった。 ○通級における指導に関する事業を計画どおり実施し、生徒の満足度も高かった。	A	○生徒間の人間関係力を引き続き育成する。 ○通級における指導に関する調査・研究をさらに進め、通級による指導を充実させる。また、通信制課程においても再来年度実施に向け計画していく。
	○体験活動をととした社会性の育成	○社会的体験を積み重ね、さらに社会性を高めることが必要である。	○諸活動において、自らすすんで行動し自信と責任を持って活動することができる。	○定通充実事業(チャレンジものづくり体験・テールマナー講習・乗馬体験・校外研修・蔵書点検ボランティア)の実施 ○アルバイト、ボランティア活動の推進	○体験的活動を計画どおり実施し、生徒の社会性が育ち、いきいきと学校生活が送れるようになってきている。	A	○今後も引き続き体験的活動をととして、生徒自ら進んで行動できるよう事業を実施し、生徒の社会性の育成に取り組む。
	○地域・社会との交流	○地域との交流をととし、地域社会や周りの環境に対する関心を高める必要がある。	○地域社会や環境に関心を持ち、異世代とのコミュニケーションができる。	○さつまいもの植付・収穫・会食を通じた園児との交流 ○銭太鼓、傘踊り体験 ○マツムシソウ、ヒガンバナの植栽活動	○計画どおり事業を実施し、地域の人々や文化に触れることで、他者との関わりや地域とのつながりを学ぶことができています。	A	○今後も地域との交流活動や文化的活動を継続し、地域の素晴らしさを認識し、積極的にコミュニケーションがとれる能力を育成する。
3 社会的な自立に向けた支援	○キャリア教育の充実	○社会の変化に対応するため、進路意識を早期に向上させる必要がある。	○進路に対する意識付けと自分の適性にあった進路実現を達成することができる。	○就職・進学講演会の開催 ○個別面談や相談の実施 ○学年団・CAと連携した進路指導	○キャリア塾事業の予算が削減されたが、外部団体の協力により計画どおり実施している。 ○自分の適性を見極められずにいる生徒がいる。	B	○個別面談等の指導を更に充実させ、生徒の自己理解、仕事理解を深めさせ、進路決定に向けての指導を充実させる。
	○「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」の充実	○社会的自立に向けて、さらに系統的な学習の確立が必要である。	○社会的自立に必要なスキルが、学年に応じて徐々に身につけている。	○系統的な学習プログラムの構築 ○学習成果発表会の実施 ○面接・着こなし講習会の実施	○自立に向けた活動を計画どおり実施し、プレゼンテーションなど自己表現能力や、卒業後の進路目標など徐々に定まりつつある。	B	○今後も自立に向けた活動を系統的に企画・実施し、卒業後の社会的自立に必要なスキルを身につけさせたい。
	○関係機関との連携	○支援が必要と思われる生徒について、関係機関との連携が必要である。	○個々の生徒が、それぞれ進路相談および進路活動の充実により進路実現を図ることができる。	○上級学校・事業所見学の実施 ○ハローワーク、若者サポートステーション、障害者就労・生活支援センターとの連携 ○インターンシップの推奨	○個々の生徒のニーズに応じて関係機関と連携し、進路実現に向け取り組んでいる。 ○HPの奨学金支援関係のページを充実させた。 ○障がい者就労に向けての取り組みを行った。	B	○引き続き計画した各種事業を実施し、生徒自身が社会経験を積むように働きかける。 ○障がい者就労について校内での指導方法を整える必要がある。

評価基準 A: 目標を達成している B: ほぼ計画どおり推進している C: 取組がやや遅れている D: 一層の取組が必要である E: 目標・方策の見直しが必要である

<100%>

<80%程度>

<60%程度>

<40%程度>

<30%以下>